

策定年月	令和6年8月
見直し年月	令和〇年〇月

# 麦・大豆国産化プラン

産地名：たつの市神岡町  
（沢田地区）

（作成主体：沢田営農株式会社）

# 1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

## (1) 需要に応じた生産の現状と課題

たつの市は全国有数の醤油生産地であり、地元の淡口醤油全国トップメーカーにおいては、地元産原料の高たんぱく小麦・大豆にこだわった製造にも取り組んでおり、何よりも安定した数量・品質の原料供給が求められている。この意義ある需要に応えるため、生産の担い手である農業者は、たつの市集落営農連絡協議会を中心に、関係行政機関やJAグループの支援指導のもと、「輸入物を超える質・量の安定供給」という課題に取り組んでいる。

当社は、同協議会の一員として、小麦の種子の地域の全量を生産する役割を一手に担っており、小麦の増産に向けて、種子もまた増産要請に応え、国産化の一翼を担うことが期待されている。

## (2) 生産における現状と課題

作業効率を高める機械の導入等は、農業を通じた共通課題であるが、こと種子においては「純正」「健全」「良質」であることが強く求められている。例えば異型種や雑草種子が混じることは許されず、赤カビ病発生や、質量・粒径・発芽力不足も種子不合格となるのは当然である。このため、効率的に機械化された農業でありたい一方で、人手をかけたきめ細かな肥培管理が求められている。当社も、標準反収200kg、作付面積10haのさらなる増加を目指している。しかしながら、自然条件は厳しさを増して過激とも言え、湿害による発芽力不足、肥料重複による倒伏、生育ムラなど、従来からの勘と経験に頼った肥培管理では対応できない。

## (3) 課題解決に向けた取り組み方針

生産性の向上を図るため、「勘と経験頼み」を脱却し、衛星画像によるスマート農業を目指す。

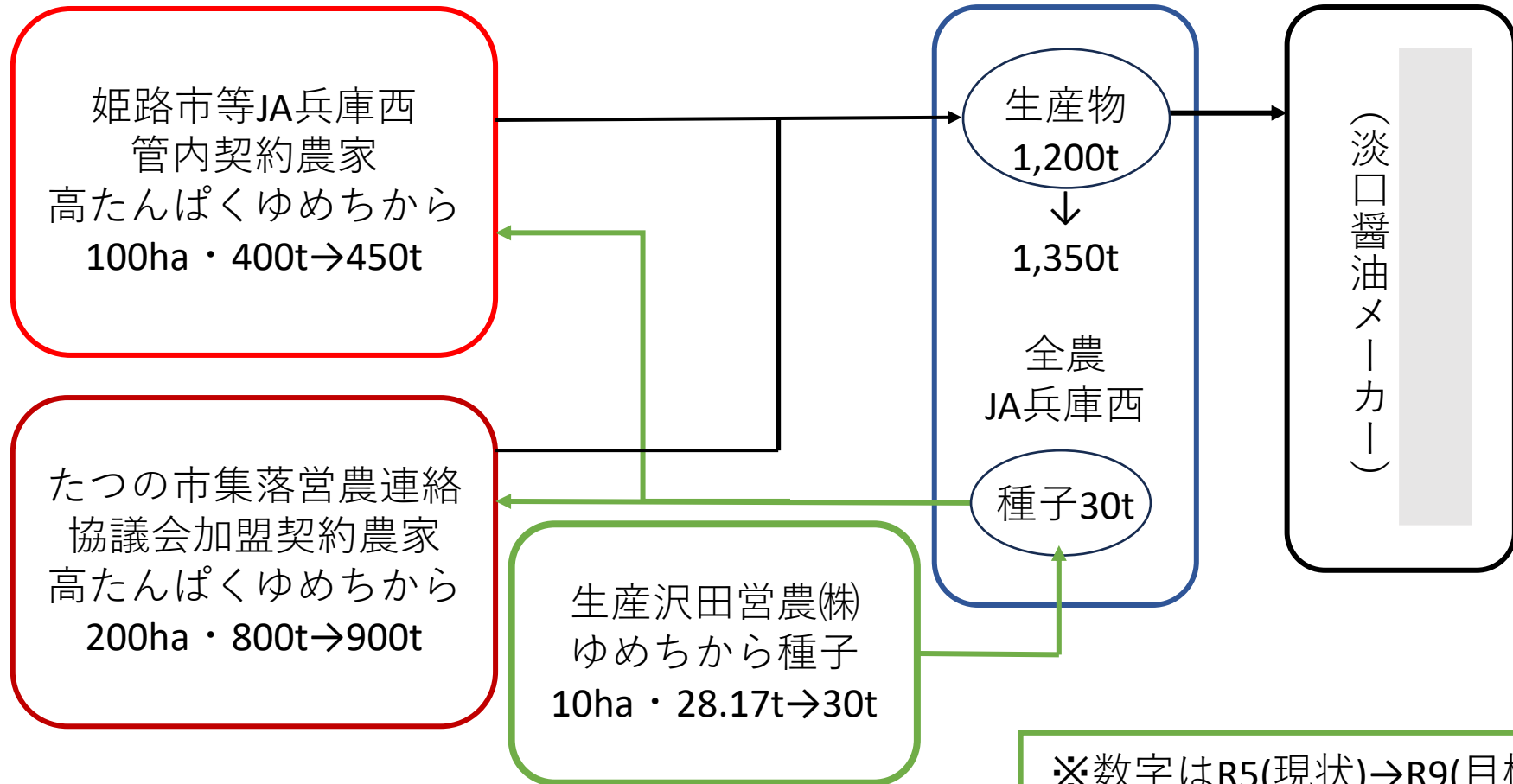
- ①100枚で10haのほ場を綿密に土壌診断を行い、土質・土性を把握し土壌改良を図る。
- ②種子小麦に適した元肥・追肥種の選択と施用方法を見直す。
- ③衛星画像（地力・生育）を活用し、きめ細かな可変施肥を行う。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

## 2. 産地と実需者との連携方針

淡口醤油原料小麦ゆめちから種子・産物のリンク図



※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

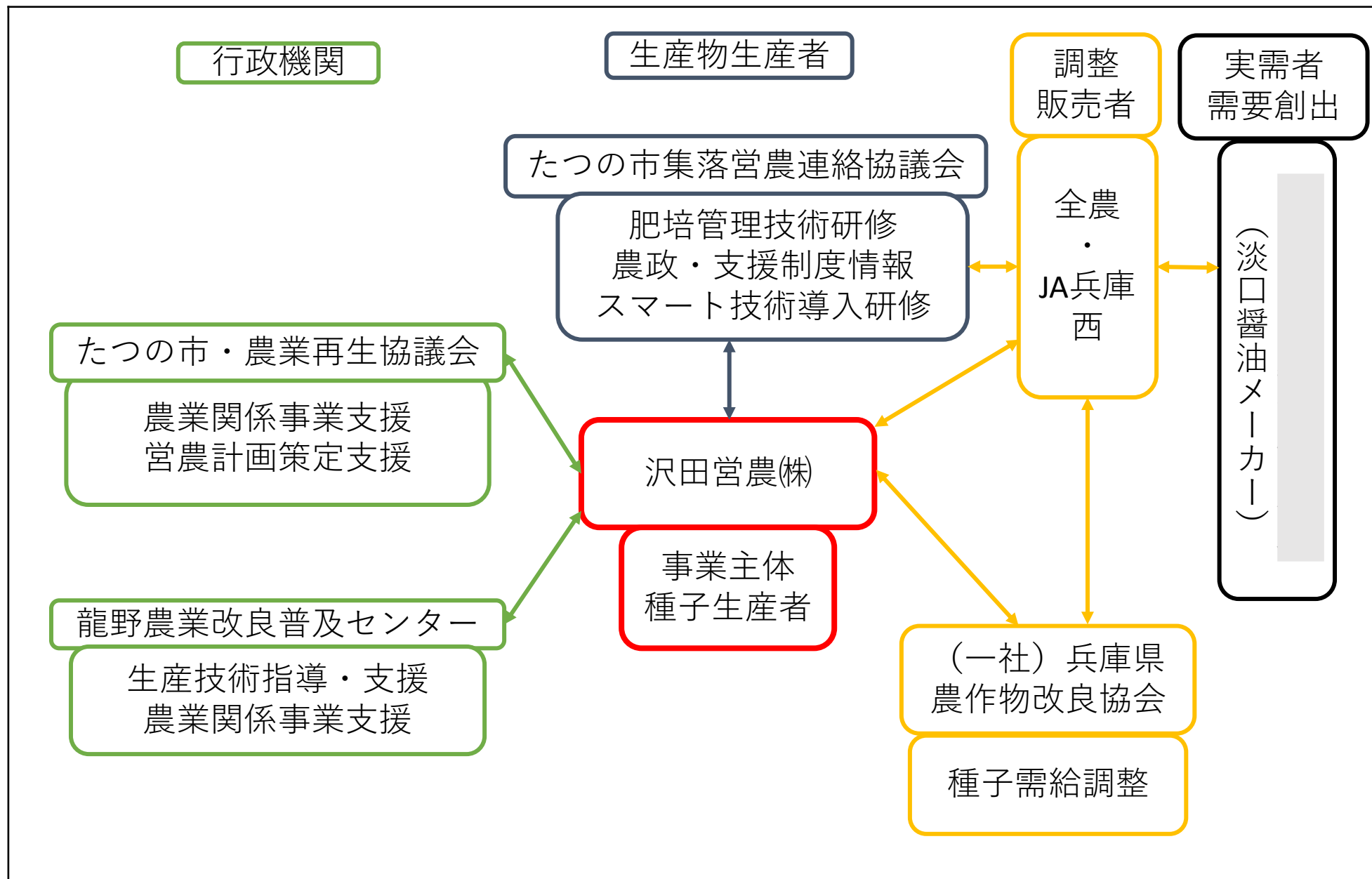
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

### 3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。